

様式1

令和2年度 学校評価表

学校教育目標	確かな学力と豊かな心をもち、たくましく生きる子供の育成		～ かしこく・やさしく・たくましく ～	
--------	-----------------------------	--	---------------------	--

a ミッション	個に応じた授業スタイルの確立による学力向上の実現	a ビジョン	学んでよかった・通わせてよかったと思っただけの学校に
---------	--------------------------	--------	----------------------------

尾道市立西藤小学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					達成値	達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力 かしこく	基礎・基本の確実な定着	個に応じた指導の充実 ・間違い直しの徹底 ・実態に応じた指導の工夫	単元末テスト(国・算)の平均点が80点を超える児童の割合	85	76.0		92.9	B	<ul style="list-style-type: none"> 平均点が80点を超えた児童の割合は、国語科82%、算数科76%だった。(平均79%、目標値より-6p) 学年によって目標値を超えた割合に差がある。 国語科：漢字や文法に課題(4年生) 算数科：活用題や思考・判断・表現に課題 平均60%以下の児童が5人以上いる学級もあり、二極化傾向が見られる学級もある。 	3			<ul style="list-style-type: none"> 新しい生活様式の中で学びの環境を整えていくのは、大変だと思うが、全児童の学力定着に向けて、全体及び個への取組を継続してほしい。 体校による授業時間数が限られた中で、色々と工夫して、目標達成に向けて努力した成果が見られる。児童の家庭での学習実態が、二極化現象になっている。複数の指導体制で目標に向かって取り組んでほしい。 新聞を授業や家庭学習に取り入れてみてはどうだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の確実な定着については、学級全体での取組と個へのアプローチの充実の両面から取り組む。学級全体に対しては、学級の課題を把握し、朝の会や授業時間を活用して小テストやプリントを実施して定着を図ったり、テスト後に再テストを実施して確実に解けるように働きかけたりする。また、個に対しては、複数の職員が、対象の児童に関わるように体制を組み、個別学習を推進する。 思考力・判断力・表現力の育成については、一人一人が自分の考えを書き、話し合い、振り返るという問題解決のプロセスを充実させる学習に取り組んでいく。
豊かな心 やさしく	お互いの良さを認め合い、相手や時と場に応じた生活ができる児童の育成	声が掛け合えるつながり作り ・挨拶運動 ・ありがとう箱	進んで明るい「挨拶」ができる児童の割合	90	84.0		93.3	B	<ul style="list-style-type: none"> 進んで明るい挨拶ができた児童の割合は84%であった。特に、指定場所での挨拶では、「はっきりとした声」で挨拶したと回答した児童の割合は93%となり、決められた場所では活気のある挨拶ができるようになってきた。 来校者や他学年に対して、進んで明るい挨拶という点では、達成した児童が77%であり、「誰にでも」挨拶をすることが課題である。 	3			<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の意味を考え、声を掛け合えるつながりを通して、差別や偏見・誹謗中傷をしない心を、より一層育ててほしい。 「ありがとう箱」の設置により、異学年との豊かな心が養われ、大変素晴らしいと思う。特に、学年を超えた運動会や各種発表会等、機会が少ない中ではあるが、このようなアイデアを出し、相手を思いやる児童の育成に取り組んでほしい。 引き続き「挨拶」に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月あいさつ週間の取組を実施することで取組を継続させる。また、さらにレベルアップさせていくために、カードや賞状等で児童の頑張りを評価し、達成感を高めていく。 「ありがとう箱」の取組については、今後も他学年との関わりがもてるように児童会を中心に進めていく。
確かな体の育成 たくましく	健康でたくましい体の育成	継続的な取組による体力の向上 ・体力アップカードの活用 ・運動あそびの紹介	体力アップカードの合計点が、学年の目標値を達成する児童の割合	80	53.1		66.3	C	<ul style="list-style-type: none"> 7月時点で、体力アップカードを用いて児童の実態把握を行ったところ、53%の児童が目標値を達成していた。しかし、学年によって結果にばらつきがあったことが課題である。その要因としては、体力向上のための取り組みを行う時間を十分に確保することができなかったことや、教師・児童に、達成の基準を明確に示すことができなかったことが挙げられる。 	3			<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍、猛暑という大変厳しい教育環境の中で、体力向上に向けて工夫して、よく取り組んでいると思う。 運動等、制限されたことで大変だったと思う。家庭でも保護者が大変だったようである。 コロナや熱中症等、外で遊ぶことが制限される中、体力の低下が心配である。秋以降、力を入れて取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力アップカードの種目について、教え合う時間を設けることで、動きのポイントについて理解を深められるようにする。 整美体育委員会の児童を中心として、休憩時間や体育朝会時に、学年を越えて体力アップカードに取り組む機会を作る。

【自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成)
C: 60≦(もう少し)<80

B: 80≦(ほぼ達成)<100
D: (できていない)<60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。ハ: わからない。